令和６年度第１回交野市図書館協議会　議事録

１　日　時　　令和６年７月５日（金）１３時から１４時１０分

２　場　所　　交野市立青年の家2階　会議室

３　出席者

　（１）委　員　　木下会長、中嶋副会長、有山委員、伊藤委員、今堀委員、内山委員、

北井委員、木場委員、竹田委員、恒松委員、苗村委員、西岡委員、

久田委員、松井委員

　　　　　　　　　　　（欠席：島田委員）

　（２）事務局　北田教育長、福田館長、原田課長代理、南

　（３）傍聴者　なし

４　概　要

　（１）開会

　（２）辞令書交付

　（３）教育長挨拶

　　　　　　　　　　　暑い中、出席いただき御礼申し上げる。

　　　　　　　　　　　私は京都府民であるが、先日、京都知事が府の広報誌に図書館に関して、「地域の皆さんに利用されてこそ意味のある一つの文化である。地域の皆さんに利用されてこそ、生きる一つの文化である」と書かれていた。そのとおりであり、利用されてこその図書館であると思う。

昨年度、倉治図書館の設備改修、絵本コーナーのカーペットの張替え、授乳室を新設し、赤ちゃんタイムの試行を始めた。地域の皆さんに、特に小さなお子さん連れの親御さんも身近に、来やすいような、地域の中にある図書館として、皆さんに図書館に来ていただこうとやっている。

今年度、エレベーター工事のため青年の家図書室が臨時休室中。少しでも地域の方に来てもらうよう火曜と金・土・日曜日、武道館の前にブンブン号を停めて、冷房もない暑い中、臨時窓口を開設し、地域の方にという思いでやっている。

　　　　　　　　　ブンブン号も古くなったため、今年度末に更新。新しいブンブン号は車いすの方、ベビーカーの方も利用しやすいような形にと予定している。また外装については小学校4年生から大人の方まで、ラッピングの募集をしている。

新しい事業としても昨年度から摂南大学と連携し、学生の意見を聞き、今年でいうとつい先週、小中学生に対して図書館と学校教育部が連携し、「あつまれ　本好きの森プロジェクト」という、小中学生の中でも本好きの子どもたちに集まってもらい、体験やビブリオバトルなどを含めてできたらと募集したところ、２０数名の小中学生が集まった。よく本離れとか活字離れと言われているが、そういった場を提供すれば、本好きな子やもっと本が読みたいという子どもたちや大人がたくさんいる。

　　　　　　　これからも図書館は身近な地域の方に利用されやすい形ですすめていくので、この場で図書館に対してご提言やご意見をいただければ有難い。

（教育長退席）

　（４）配布資料の確認

　　　　事前配布資料：交野市立図書館条例

　　　　　　　　　　　　　　　　 交野市図書館協議会委員名簿

　　　　　　　　　　　　　　　　 交野市立図書館令和5年度事業報告

　　　　　　　　　　　　　　　 　交野市立図書館令和6年度事業計画

　　　　　　　　　　　　　　 　　第4次交野市子ども読書活動推進計画　進捗状況表

　　　　当日配布資料：次第、交野市図書館年報（令和4年度版）

（５）委員出席状況報告

事務局：交野市立図書館条例第４条第５項により、ここから議事進行を木下会長に渡した

い。

　　　　会　　長：では次第に沿って進めていく。その前に本日の出席状況について、事務局からお

願いする。

　　　　事務局：本日の出席状況について報告する。委員１５名中１３名の出席で半数を超えてい

るので、交野市立図書館条例第４条第６項により会議は成立。

　　　　会　　長：次第「３．令和５年度事業報告」「４．令和６年度事業計画」について、事務局から

説明を。

（６）令和5年度事業報告について（事務局より資料に基づき説明）

事務局：令和5年度事業報告について、前年度から変動のあった部分を中心に報告する。

２頁「１　交野市立図書館の歩み」について。先ほど教育長の挨拶にもあったように、返却ポストの設置、電気・機械設備等改修工事など、様々な環境整備に努めた。

また、３月開始の「（仮称）赤ちゃんタイム」については、こちらは後ほど報告する「第４次交野市子ども読書活動推進計画」に基づく事業。乳幼児とその保護者が気兼ねなく図書館利用ができる時間帯を設定するもので、事前アンケートで多くの肯定的な意見をいただき、試行実施を開始。

４頁「４　図書館の推移」として、「（１）利用状況等の過去５年間の推移」を掲載している。令和５年度の詳細は後の頁で出てくるが、ここでは前年度と比較してご覧いただきたい。

大きく変動したのが、上から５行目「個人貸出冊数（広域含）」。倉治図書館の電気・機械設備等改修工事に伴う２ヶ月の臨時休館の影響で減少。

また、自動車文庫の貸出冊数も減少しているが、これは、隣接する幼稚園が園舎建て替えのために移転してしまったステーションがあり、お迎え帰りの親子連れの利用が減少した影響が大きいと考える。

表の下から２行、「予約冊数」と「web予約冊数」は、過去１０年増加し続けてお　り、5年度も引き続き増加している。

　　　　　　　　　　　　５頁「（２）継続行事参加者等の推移」について。

倉治図書館おはなし会は２ヶ月の臨時休館にもかかわらず、前年度の１．５倍以上、青年の家図書室おはなし会は、一部開催時間を変更したことにより前年度の３倍以上の参加人数となった。

このほか、職員出前講座、小学校の図書館見学なども大幅に増加。中学生職場体験も復活するなど、コロナ禍からの回復が見られた。

同頁下の表「（３）主な決算額の推移」は、令和５年度決算がまだ確定していないため、空欄となっている。

６頁からは「５　図書館の利用状況等」となっており、「（１）利用統計」は４頁で　もご覧いただいた数字となっている。

「（２）その他利用」は開館日数や４頁で説明した予約冊数のほか、文献複写、新聞・雑誌タイトル数、青年の家読書室の利用数が出ている。

その下の表は「（３）団体貸出」冊数の詳細。私立保育園・幼稚園等への貸出が前年度に比べ、約1000冊増加した。

７頁「（４）録音図書借受点数」は、２人の視覚障がい者の方が、合計９６点のデ　イジー図書やカセットテープを利用。

　　　　　　　　　　　「（５）広域事業」は、北河内の市民が７市すべての図書館を利用できる制度で、

他市の統計はまだ出ていないが、交野市における他市民への貸出、利用者数はと

もに前年度より減少。

８頁「（６）相互貸借」は、未所蔵の資料を他市図書館と相互に借り受け、利用者のリクエストに応える制度。借受冊数、貸出冊数とも少し減少。

その下は「（７）自動車文庫ステーション別利用統計」。利用者数、貸出冊数とも減少したが、この数字とは別に、倉治図書館の２ヶ月に及ぶ臨時休館中、移動図書館車にて臨時窓口を開設し、１０５７人、３８１０冊の利用があった。

次頁「（８）蔵書統計」「（９）分類別蔵書統計」「（１０）統計指標」と続き、１０頁

から１４頁が「６　年間行事等」となる。

児童サービスの部分については、後ほど「子ども読書　活動推進計画」進捗状況としても報告するが、先ほども申したように、おはなし会や職員出前講座などで大幅な参加者数の増加がみられた。

１１頁「（５）リサイクル・フェア」も受付方法や開催時間・定員の変更などにより参加者数、譲与冊数が増加、譲与率、準備した本のうち、お持ち帰りいただいた本の割合は過去最高の７７％となった。

１２頁「（６）高齢者・障がい者サービス」では、①大活字本の充実を図った。

②対面朗読はコロナ禍以降、青年の家図書室での実施希望者は０人となっているが、朗読グループ「あい」さんが実施される別の場所での対面朗読や録音図書作成のための本の貸出を行った。

１４頁。令和５年度取り組んだ新規事業を「（１１）その他事業」としてまとめた。

①ＦＡＬ（フィールド型アクティブ・ラーニング事業）は、摂南大学現代社会学部との連携事業。学生とともに市民向けイベントを企画・開催、図書館を「場」とした読書振興に取り組んだ。中でも、９/２３のトークイベントは、木下会長にもパネラーとして出席いただき、「本を介したコミュニティづくりーみんなで考える読書の可能性」として、市内外の参加者とディスカッションを行った。参加いただいた委員の方もおられる。このイベントは、「まちライブラリー ブックフェスタ・ジャパン２０２３」との連携企画として、このように全国で配布されるパンフレットにも掲載された。

②移動図書館車「ブンブン号」で「交野いきいきマルシェ・おりひめの駅」に参加した。マルシェ内でブンブン号を展開、貸出・返却などを行ったほか、ボランティアグループの皆さんによる屋外でのおはなし会を実施、３回で２３１人の参加があった。

このほか、市内団体や他課との連携事業なども合わせ、新規事業の参加者は　合計で３８６人となった。

ここで１点、修正。「③みんなの絵の本広場」の「内容」部分「共催：障害児（者）親の会」となっているが、正式には「交野市障害児（者）親の会」。

１５～１６頁は「７．学校等への支援と連携」。こちらもコロナの収束とともに学校や園からの依頼が増加。

１７頁「８　関係ボランティア団体等の活動と連携」について。

「（１）地域家庭文庫」は、５つの文庫が市内で活動。各文庫へ図書館から新刊本の提供を行っているほか、文庫連絡会と共催でストーリーテリング研修会を開催している。本協議会にもお二方、委員として出席いただいている。

「（３）朗読グループあい」さんからも本日、出席いただいている。先ほど１２頁で説明したように高齢者・障がい者サービスの部分での連携を図ってきた。令和５年度は、録音図書、デイジー図書と呼ばれるものを１９タイトル作製していただいている。

その他、「（４）学校図書館ボランティア」「（５）よみきかせサポーター」のみなさんと情報交換や協働でのイベント開催等に取り組んだ。

１８頁「９　第４次交野市子ども読書活動推進計画」に基づく事業については、この後、同計画の進捗状況として報告させていただく。

１９頁「１０　交野市図書館協議会」については、昨年度は１回開催。出席いただいた皆さまに感謝する。

「１１　まちの図書館化事業」は、開始から６年が経過するため、現況調査を実施し、資料の補充や入替とともに、細かなニーズの把握に努めた。

また、子ども食堂より要望があり、新たに「まちのこども図書館」として児童書を提供。この「まちのこども図書館」と既存のまちの図書館とが連携し、本の相互利用をされるなど、新たなつながりが生まれている。

２０頁「１２　雑誌スポンサー制度」は、５年度から１社増え、２社から６誌の提供を　受けた。

以上、令和５年度事業報告とさせていただく。

（７）令和6年度事業計画について（事務局より資料に基づき説明）

事務局：「１ 資料の収集・提供」について

図書館利用者の予約・リクエスト及びその他の多岐にわたる要求に応えることができるよう、利用実態に合わせた有用な資料の収集に努め、未所蔵の資料については、相互貸借制度を活用するなど、できる限り提供に努める。 また、高齢者、障がい者、日本語を母国語としない人なども含めたすべての人が読書に親しむことができるよう、大活字本や点字本、ＬＬブック、多言語絵本など様々な形態の資料整備を進める。 そして市内に設置した「まちの図書館」資料の補充・入替えやリサイクル・フェアの実施により、除籍した資料の有効利用を図る。

「２ 図書館情報ネットワークシステムの充実」事業について

幅広い世代を対象にしたインターネットサービスの利用促進に努め、利用者層の拡大を図る。貸出券の新規作成について、電子申請の導入を検討。来館せずにインターネットで貸出券作成を申請し、そのままネットでの本の予約が可能になることで、利便性の向上を図りたいと考えている。

「３ 図書館利用窓口の充実」について

平成１７年の更新から約１８年が経過し、老朽化が進む移動図書館車の更新を行う。新車両は、車椅子やベビーカー等の利用者にも対応できるよう、リフトを搭載し、誰もが利用しやすい図書館サービスの提供をめざす。

先日、校長会にて、市内小学４年～中学生を対象にした車体のラッピングデザインの募集について、説明させていただいた。この他、広く一般の方にもご応募いただくために、８月号広報でもお知らせする予定。納車は２月中を予定、 ３月にはお披露目のセレモニーを開催できればと考えている。青年の家エレベーター工事に伴う臨時休室中の臨時窓口やイベント利用において、現行の移動図書館車を活用するとともに、巡回ステーションの増設について検討し、移動図書館車の利用促進を図る。また、利便性向上のため、図書施設以外への返却ポストの増設についても検討する。 JR星田駅に設置予定で、現在、寄贈いただく団体と調整中。

「４ 子どもの読書活動推進 」について

「第４次交野市子ども読書活動推進計画2022年度～2026年度」に基づき、家庭・学校・地域と連携し、子どもの読書環境の整備に努める。試行実施中の「（仮称）赤ちゃんタイム」の正式実施や子ども向けイベントの開催など、子どもと読書を結びつける機会が豊かになるよう、さまざまな取組みを行う。赤ちゃんタイムについては、４か月児健診等での周知に努め、正式実施に向けて、来館者アンケートを実施予定。

「本の森プロジェクト」や「あつまれ 本好きの森プロジェクト」の開催など、市民団体や関連機関との連携を図り、子どもの読書活動の普及と啓発を行う。 コロナ禍で実施できていなかった「本の森プロジェクト」は、市民団体及び教育総務室と連携し、７/７（日）に開催。七夕コンサートや手作りの絵本・楽器制作コーナーと併せ、星・七夕・夏にちなんだ絵本の展示等を行う。

新規事業「あつまれ本好きの森プロジェクト」は、指導課と共催。全５回で、図書館司書体験や図書館見学、ビブリオバトルワークショップといった取り組みを実施する。小学校５・６年生と中学生を対象に定員２０人の募集に対し、２４人の応募があった。

「５ 市民協働の推進」について

子どもや障がい者の読書活動を推進するために、さまざまな活動を行っている市民ボランティアグループを支援し、おはなし会や各種イベント、障がい者への情報提供等において、より一層の連携・協働を図る。今年度も昨年に引き続き、交野いきいきマルシェおりひめの駅でのおはなし会を協働で実施予定。

「６ 図書館・図書室の運営」について

「交野市立図書館運営方針」に基づき、効率的な図書館運営に努めるとともに、より質の高いサービスの提供をめざす。 また、青年の家エレベーター工事に伴う臨時休室中、青年の家図書室の人員・業務を効率的に振分け、臨時窓口を含む全館・全室の円滑な運営に努める。

摂南大学との連携事業「ＦＡＬ」を今年度も実施、学生と協働で図書館利用促進を図るなど、新規利用者獲得に向けた取組みを進める。ＦＡＬについては、今年度も６名の学生の参加が決定。学生から読書振興、利用促進のための企画を募り、現在、実施に向けての調整を進めている。

令和６年度の事業計画は以上となる。

会　　長：質問や意見はないか。倉治は２か月間休館したにもかかわらず、いろんな事業をやっていて、頭が下がる思いであるが、みなさん、何かないか。

副会長：本当にいろんなサービス、事業をしており、頭が下がる思いだ。

会　　長：新規事業14ｐ摂南大学とのFAL、フィールド型アクティブラーニング。私も参加し　　たが、こちらは継続ということか。まちライブラリーの磯井さんも来られ、充実したイベントであった。大学にいる立場として、ここまで大阪府内の図書館で例えば大学生が読み聞かせをするといった単発的なイベントではなく、企画から学生が関わり、担当の先生も大いに関わり、総合的に社会実証実験的なことをしている図書館は珍しいので、こういうことをしているとぜひ発信して行ってほしい。今年も楽しみにしている。

副会長：私も８月のイベント全てに参加したが、いろいろと学ばせてもらった。

会　　長：大学生がすごく積極的に関わっていた。それを図書館職員がうまくサポート。こう　　いう連携の仕方もあるんだなと。

会　　長：学校現場でなにか気付いたことがあれば。高校の現場は。

委　　員：校内の図書館は利用がもう一つ伸びない。なかなか難しい。事業報告を見たが、たくさんの取り組みをしていて、すごいなと。本に接する機会を増やすということが、一番大事なのではないか。遠回り、地道な作業に見えるが、一番の近道なのではないかと感じた。

会　　長：小中学生の読書離れはそう進んでおらず、逆に何十年のスパンで見ると伸びているくらいであるのだが、残念ながら高校生と大学生がということになる。中学校の現場は。

委　　員：以前からもお伝えしているかもしれないが、中学校でも毎日昼休みに図書室開室。教員プラス、私は一中校区、第一中学校にいるが、一中校区はコミュニティースクールという事で、みらい学園のサポーター、みらサポを募集し、その方にも一緒に入ってもらいながら、図書室を開放している。

ここから少し離れるが、指導課の方から配慮してもらい、今年は新聞を一般紙２社、中高生新聞も２社、図書室にいれている。それを一部、掲示物として活用したり、学校によっては調べ学習を防災教育で取り組むとか平和学習で取り組むとかで進めている。指導課の方も各学校の先生方を集めて情報交流しながら図書室の使い方、他の学校はどういう活用をしているのか等、情報交換しながら進めていっている状況。

会　　長：貴重な現場の声をありがたく思う。小学校の現場は。

委　　員：前任校が藤が尾小学校で、おはなし会に来てもらった。たくさん本を読んでもらっ

たり、紹介してもらい、聞いてるこちらが引き込まれてお話の続きが気になり、購入した本もあった。今は倉治小学校だが、倉治小学校のことを調べたくて相談の電話をしたところ、大変親切にいろんなことを教えてもらった。市民の方が、なにかわからないことや知りたいことがあったら、きっとこんな風に調べてくれる図書館なんだなと思った。

会　　長：今のは、訪問おはなし会のことか。

委　　員：15ｐ。藤が尾小学校。児童数が少ないので、２クラスでこの人数。１年生から６年生まで本当に楽しんで聞いていた。

会　　長：この訪問おはなし会は毎年学校を選んでいるのか。あるいは学校側からの要望か。

事務局：依頼いただいて。

会　　長：いくら人手、職員体制があっても、大丈夫かなと思うくらいいろんなことをしている。

恒松委員が報告してくれたのは図書館のレファレンスというサービス。ふと思ったのだが、利用統計でレファレンスは取っていないのか。いつまで休館かなどといった、クイックレファレンスものも含めて、レファレンスの統計も取ってはどうか。私も現場にいた時は、クイックレファレンスは正の字を作るくらいで、込み入ったレファレンスのみレファレンス記録に残して、国立国会図書館のデータベースに登録していたが、きっといろんな問合せを受けていると思うので、年度の途中ではあるが記録を取っては？今後、検討してもらえればと思う。これも図書館が取り組みしていることの顕在化になるかと思う。

松井委員。活動されている文庫連絡会としてどうか。

委　　員：なかなか子どもたちが文庫に来てくれない状況の中で、岩船小学校におはなし会に行っている。去年は２学期だけだったが、今年度は１学期・２学期とすることになっている。こちらから届けることも大事かと。世話役の人数もいないので、いろんな小学校に行きたいがなかなかそれはできない。

藤が尾小学校のように他の小学校も訪問おはなし会を利用してはどうか。私たちと違って手遊びとかわらべ歌とかエプロンシアターなど、楽しいことをいろいろしているので小学校低学年にとって、そういうのはとても楽しい体験かと思う。ぜひ他の小学校でも。依頼があって初めて図書館も動けると思うので利用されたら。

会　　長：あいさん。17ｐにあるデイジー図書の制作１８タイトルとあるが、これは依頼があったものか。

委　　員：コロナ禍以前は利用者からの依頼の図書があったが、今現在は交野市広報や議会だよりなど、公のものについて音訳して届けている状況。

会　　長：地域資料、市の情報ということか。

委　　員：先ほど少し触れてもらったが、対面読書についてコロナ禍前は定期的に利用者がいたが、コロナ禍以降、図書室を利用してというのがなくなりゼロになった。細々ではあるが、地域の集会所でニーズに応えている。地域からの朗読会の依頼があった時など、図書室から大型紙芝居などを借用し、喜ばれている。

会　　長：図書館以外でも活動の場を持たれている。対面朗読は図書館以外の場所では、何か広報しているのか。

委　　員：声の広報を利用してくださっている方たちには、いつもお知らせしているが、そんなにそこからの対面朗読の依頼はない。地域の集会場でという声はある。

会　　長：コロナがきっかけとなり、大阪府立はzoomでやっていた。その後は継続しているのか。

委　　員：zoomで継続中。その方が来館しなくてよいので。府立なので遠くから来られる方もいる。自宅に居ながら対面朗読を受けられるという事で、zoomの対面朗読を継続中。

会　　長：きっかけはコロナか。

委　　員：コロナ。

会　　長：一旦、便利さを知ると。

委　　員：いろいろなものがオンライン。研修もオンライン配信したものもある。コロナが収まってきて、集合研修が始まっても継続している。

会　　長：大阪府立の昨年出版された子どもの本の紹介もコロナがきっかけでオンデマンドになって、コロナが収束してもリアルと両方ということで、大変参加しやすくなった。

委　　員：zoomでという意見があまりにも多くて、やめるにやめられない。

会　　長：オンデマンドも1カ月くらい視聴でき、分散して視聴できるところがよい。この場で大阪府立さんに御礼を。

委　　員：今後も実施する予定なので、ぜひ利用していただければ。

会　　長：図書館員も府立にリアルに研修に行かなければならないと交代になるが、今の形

式だと全員が分散して観れるので。コロナがきっかけで研修の方法なんかも変えていただき、参加の可能性が高まり、助かっている。

会　　長：有山委員は。

委　　員：子ども会でも人数は減ってきて、子ども会としては活動していないのだが、個人としてはFALの内容について、私も参加したかったなと。興味のある内容であった。

会　　長：今年度はもう始まっているが、今年度の事業計画について何か確認したいことなどないか。

会　　長：利用券の電子申請というのは何かスケジュール的なもの、予定などは決まっているのか。

事務局：まだこれから。

会　　長：リプレイスをきっかけに、ホームページがとても見やすくなった。ネットワークシステムの充実という事だが、情報発信についても魅力的なものになっている。

先ほど学校現場からの状況をお知らせいただいたが、内山委員は。

委　　員：今年度の新しい事業の中で「あつまれ　本好きの森プロジェクト」というのを行っている。最初はビブリオバトル大会を市でできないかと考えていたが、ビブリオバトルを前面に出すと、ハードルが高いのかということで、読書好きの子が集まって、それを共有できるような場、いろんな体験ができる場として募集を掛けたら、はたして誰か応募してくれるのかと心配していたが２４名集まった。自己紹介と自の好きな本を紹介してもらったら、しっかり紹介してくれた。交野市内でも本を全く読まないという子も一定数いるが、そういう子への働きかけもあるが、読む子たちを前面に出して、何か発信してもらうことで、より読書の楽しさが子どもたちの中に広がっていくというのもこれから期待できるのかと。まだ１回集まっただけだが、今年度いろんな活動を通して様子を見ながらまた、来年度も続けていけたらと思っている。

会　　長：報告を楽しみにしている。

委　　員:一つだけ質問してもいいか。全部、若い人や子どもばかりだが、シニアに対する呼びかけとか活動は。じっくり本が読めるのはシニアであると思う。暑いときこそ、図書館に呼び掛けてもらいたい。

事務局：先ほど、摂南大学との連携事業FALについても、子どもに限定したものではなくて、一般の方も含めて参加してもらえるもの。トークイベントは大人の方向けのイベントであった。それ以外も大人の方も一緒にみんなで楽しもうというイベントであった。トランプで遊ぼうのイベントも、小さい子どもから大人の方までが一緒になって大きなトランプを作って、そのトランプで一緒に七並べをして。これをきっかけにまた図書館に来てもらえたらなという願いも込めて行ったイベント。

みんなの絵の本広場も子ども向けという事ではなく、大人も含めて読書があまりという方でも眺めているだけでも楽しめるというようなイベントになっている。

4番の他課との連携事業についても一般の方も含めてたくさん参加いただいた。事務局：今年度についても社会教育、文化財係と連携し、倉治図書館で森遺跡を探ると

いう大きなタイトルで全5講座を開く予定にしている。またそれらも参加していただ

ければ。

副会長：ちなみにすべてのイベントに参加。リサイクル・フェアも。

会　　長：12ｐ図書のテーマ展示もいろんな世代の方が関心を持たれるのでは。バランスを取って選んでおられるかと。

　　　　　　　　　 では「第４次交野市子ども読書活動推進計画」の進捗状況」について事務局から報告を。

（８）第4次交野市子ども読書活動推進計画　令和5年度進捗状況について

（事務局より資料に基づき説明）

事務局：令和４年３月に「第４次交野市子ども読書活動推進計画」を策定。本計画の実　施期間は2022年度から2026年度、令和４年度から令和８年度の５年間となっている。令和５年度の進捗状況について、報告させていただく。

時間の関係上、昨年度から評価が変更となった取り組みのほか、特徴のあった項目について説明する。

1頁「１　家庭における子どもの読書活動の推進」８項目のうち、「②乳幼児のい　る家庭向け絵本紹介」について。

青年の家図書室での月２回のおはなし会のうち、１つを乳幼児対象とし、１１時か　らの時間変更を行なった。その結果、毎回10人ほどの参加があり、リピーターも増え、好評をいただいている。ニーズに対応したサービスとなったことから、評価を「Ｃ」から「Ａ」とした。

「④認定こども園・幼稚園や学校における家庭への啓発」について

毎年、市内こども園等に協力いただき、直接アンケートを行なっているが、昨年度の調査回答よりも、大きく前進があった。記載のとおり、各園で様々な取組みを行い、子どもと読書に対しての関心が高い傾向にあった。また、コロナが落ち着いたことも大きな要因であるかと思われる。評価は「Ｂ」から「Ａ」とした。

「⑥子どもが集う場所での児童書の充実」について

　　　　　　　　　 子ども食堂の新設に伴い、絵本を設置したいとの要望に協力することができた。子どもの居場所として、食堂以外の働きもあることから、今後も資料提供の支援を継続して行っていく。評価は「Ａ」とした。

次に「⑦赤ちゃんタイムの実施」について

こちらは「乳幼児とその保護者が気兼ねなく図書館を利用できる時間帯の設定」

を行うもの。事前アンケートを行なった結果、事業への協力的な意見が多く、市民の方が、子育てに好意的であることがわかった。令和６年３月から「（仮称）赤ちゃんタイム」を倉治図書館にて試行実施を始めた。評価は「Ｂ」とした。

　　　　　　　　　　 「⑧図書館利用の整備」について

交野ロータリークラブより創立40周年事業の一環として寄贈いただいた返却ポストを、フレンドマート交野店の協力により設置が実現したほか、報告にあるように、主に倉治図書館の環境整備を想定以上に行うことができたことから、評価を「Ｄ」から「Ａ」とした。

２頁「２.学校等における子どもの読書活動の推進」の「（１）認定こども園・幼稚園・保育所等の役割と取組み」８項目のうち、「⑤幼稚園教諭や保育士に読み聞かせ講習会」について。

アンケート調査でのニーズの把握にとどまったため、評価は「Ｄ」とした。

３頁「（２）学校の役割と取組み」10項目について

コロナ禍で途絶えていた　中学校の職場体験、社会体験研修等が再開し、図書館見学の依頼も増加した。評価については、すべての項目が「Ｂ」となっているので、説明は割愛させていただく。

４頁「３.地域における子どもの読書活動の推進」５項目について。

「④子どもの読書に関連した各種講座開催」　だが、前計画における「よみきかせサポーター制度」から移行し、広く市民を対象とした「絵本学講座」が昨年度に引き続き、好評であった。また、初めての試みとして、摂南大学現代社会学部と市が連携を行い、図書館でのプロジェクトとして、図書館の利用促進、読書振興、居場所づくりの観点から、１年生６人による企画を実施。イベントには子どもだけでなく、高齢者の参加もあり、世代間交流の場ともなった。このことが市民と図書館の「場」を考えるトークイベントにもつながった。若い大学生の力を借りながら、市民のニーズを知る機会となったことから、評価を変わらず「Ａ」とした。どの世代にも図書館を利用していただけるよう、引き続き学びの場を提供していきたいと考えている。

次に、同頁「５.子供の読書活動の普及　啓発活動」　４項目のうち、本の森プロジェクト」について

令和6年度に向け、スケジュール調整等、具体的なプランニングがあったことから、評価を「E」から「D」とした。

続いて、５頁からの「４.市立図書館における子どもの読書活動の推進」について。

「再掲」とあるように、先の頁にあった、家庭や認定こども園、学校、地域への取組みへの支援等を含め、関連する取り組みが３０項目ある。そのうち７頁「⑥図書館利用の整備」だが、こちら「再掲」が抜けていた。申し訳ない。

7頁「①図書館システムの機能を生かした児童向けサービスの向上」について

児童に向けた発信はできなかったため、評価は「Ｅ」とした。

次に「⑤ヤング・アダルト図書コーナーの設置」について

小学校高学年から高校生１２歳から１８歳くらいまでを図書館用語でＹＡ（ヤング　アダルト）というが、読書や図書館離れが多い世代。試験的に子ども図書室にヤング・アダルト対象に「夏休みに役立つ本」を展示したところ、資料の活性化ができた。また、ヤング・アダルト世代の摂南大学現代社会学部１年生のおススメ本をポップ付きで展示したところ、イベントと併せて、本と図書館活動に興味・関心をもってもらうことができた。これらのことから評価を「Ｂ」から「Ａ」とした。

総論として、A評価と判断したことが多い結果となったが、各部署や機関、読み聞かせグループ等との連携が実を結びつつある状況であると思われる。

「１.家庭における取り組み」では、ブックスタート事業における保護者の関心が高まっていること。こども園では昨年度と比較すると各園での取り組みが大きく前進していること。学校においては評価は変わらないものの、目標どおりの実績を維持することは、それぞれの立場の大人が、学校現場で子どもに寄り添う地道な努力を行っておられること。「３.地域における取り組み」では、子どもと読書に関わる大人が、研修で理解を深め、定例会で情報を共有し、それらのアウトプットの場として、リニューアルしたおはなし会が受け入れられている。本の森プロジェクトも具体化するなど、コロナ渦が一定収束したこともあり、本のある図書館が「場」となりながら、生涯学習として読書につながればと考えている。以上、進捗状況を報告する。

会　　長：何か質問や意見は。

３月に試行された赤ちゃんタイムについて。これは試行後、今後どのように実施する予定か。

事務局：まだ現在も試行中。いろんなシーズンを通して、子ども、赤ちゃん連れが多い時期、時間帯、曜日等を検証。今は、平日の水・木・金と土曜日の１０時から１２時にやっている。統計をとり、状況を見極めながら、今後、本格実施をしていきたいと考えている。

会　　長：赤ちゃんタイム、みなさんご存じか。子どもに「図書館は静かに」というのではなく、例えば毎週金曜日の午前中はすくすくタイムなど図書館によって名称は違うのだが、静かに読書をする環境ではなくなるかもしれないが、それでもよろしければということで、赤ちゃんと保護者だけの時間にするわけでもない。気兼ねなく図書館を利用してもらう取り組み。ぜひ、曜日はまた見極めていただき、施行化してもらえたら。

府立はどうか。

委　　員：府立は子ども資料室が独立しているので、静かにとは言っていない。走り回って　いる。ゾーニングができている。反対に親御さんが気にしているくらい。どうぞという感じ。

会　　長：部長は何か。

委　　員：図書館職員は意見をいただいて喜んでいるかと思う。ただ、やったからにはやはり　　課題がある。課題をいかに改善していくかを、図書館職員として意識を持って次に繋げていく方法を考えてもらいたい。事業をやるにあたっては、情報発信が下手。このターゲットに来てほしいな、この層に来てほしいなというところに、いかに情報を届けるか。広報、ホームページ、SNSに発信したから来てくれるだろうではなく、直接そこにどう届けるのかという事も今後考えていかないといけない。図書館職員の課題として考えていってもらいたい。

会　　長：この計画が策定されたのが、２０２２年３月なので２年経過。５カ年計画で２年経過。いろいろな取り組みの中、課題なども見えてくるかと思う。蛇足ではあるかも知れないが、子どもの時の読書経験、子どもの時の読み聞かせ経験が、その後の人生、読書にどう関係があるのかという研究について、今まで明確なものがなかったのだが、去年、ベネッセが東大と組み、きっちりとした追跡調査を行なったものが、WEB上で閲覧できる。学生の卒論の関係もあり、目を通したところ、明らかに相関関係があった。東大と協力し、膨大な報告書をまとめたもので、子ども読書計画をすすめる立場として説明がしやすくなった。

委　　員：生涯学習の部長４年目。私は三中校区に住んでいる。今なら星田会館図書室だが、それまでは星田出張所の中に小さい図書室があっただけ。娘が青年の家図書室に来たので、何しに来たのかと聞くと、娘の友だちが子どもを連れて図書館に来たので、一緒について来たと。友だちというのは南星台に住んでいる友だち。本来なら星田コミュニティーセンター図書室が近いはずだが、あえて青年の家図書室に来ていた。なぜかと聞くとその友だちは、小さい頃から親に青年の家図書室に連れてもらってきた。だから、自分も子どもを連れてここに来たというのを聞いて、これかと。小さい子どもの頃から読書が身近にあれば、子どもが親になった時に、また次の子どもを図書館に連れてきて読書をする。絵本を見る。そういう習慣ができるのかなと。時間はかかるかと思うが、それはやはり繰り返し。図書館の利用価値、利用頻度も上がってくるのかなと。中高生の利用もなんとかそういったところで考えていけたら、時間はかかると思うがやっていく必要があるのかと担当部長として思う。

会　　長：子どもの時からの経験が残る。先ほどのベネッセの調査を思い出したが、子どもの読書習慣の形成に家の中に本が何冊あるか、それも段階に分け、家の中にある本の冊数が多ければ多いほど、子どもの読書に繋がっている。そんな調査結果もあった。家庭の事情もあるので一概には言えないが、部長の話を聞いて、それを思い出した。

２年目という事であと３年。第４次をもとに読書計画を推進していくよう引き続きよ

ろしく。

副会長：松井委員が文庫にくる子が少なくなったという話をしたが、えんがわ文庫も今年５０年、文庫連絡会も５０年になる。交野の図書館にも５０年お世話になっている。今、感じることは、学校の図書館と公共、市の図書館が充実してほしい。学校は子どもたちが本に出会う場。市の図書館もたくさんの事業をしているが職員の数が７名から一向に変わらない。毎年言っているが、余裕を持って子どもたちに接することができる職場になったらいいなと利用者として思っている。

会　　長：職員組織図を見ても、司書率が高いのがわかる。

本日予定していた案件は以上であるが、他に何かあるか。なければ以上を持って、令和６年度第１回交野市図書館協議会を終了したいと思う。では事務局にお返しする。

事務局：館長 福田より挨拶を。

館　　長：本日はお忙しい中、出席いただき感謝する。会長をはじめ、委員の方々のご意見・ご質問等、持ち帰り、図書館内で共有し、今後の図書館運営に反映させていきたい。今後も市民の方々に利用いただけるよう、職員一同、努力していく。最後になったが、委員の皆さまに今後とも図書館をよろしくお願いして、閉会の挨拶とする。